

令和5年度

山梨県総合教育センター研究大会

新たな時代に対応する学校教育への総合的な支援

- 求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導の在り方 -



令和6年2月27日 13:00～16:50 オンライン配信

開催行事 13:00～13:20

特別講演会 13:30～15:10

演題「不登校の子どもとその支援」
奈良女子大学 教授 伊藤 美奈子 先生

研究発表 15:25～15:45

グループ討議 16:00～16:50 (ブレイクアウトルーム)



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATIONAL CENTER

目 次

基調提案	P . 1 - 2
特別講演会資料	P . 3
令和6年度研究支援対象校募集について	P . 4

開催行事次第

開会のことば

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 県教育委員会あいさつ | 山梨県教育庁 |
| | 教 育 監 市川 敏也 |
| 2 所長あいさつ | 所 長 飯島 清樹 |
| 3 山梨大学アドバイザー紹介 | 次 長 小尾 俊彦 |
| 4 基調提案 | 教育研究推進幹 重田 誠 |

閉会のことば



令和5年度 山梨県総合教育センター研究大会

基調提案

- 研究主題 -

「新たな時代に対応する学校教育への総合的な支援」 ～求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導の在り方～

本センターの調査研究分野における役割は、国並びに本県の教育施策を踏まえ、関係機関と連携し、教育資源の収集・発信を行うことで学校教育の振興を図ることであると考えます。その考えに基づき、本センターの基本方針である「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」の具現化のため、学校現場の現状に即し、今日的な教育課題解決に向け、必要とされる実践的な学校支援や校内研究支援を推進してきました。

令和5年度は、教育活動においても新型コロナウイルス感染拡大防止に向けての様々な制限が緩和される中、学校では子供たちの学びの充実や安心できる居場所づくりを進めながら、コロナ禍の中で進められてきたGIGAスクール構想による教育のICT化、「令和の日本型学校教育」の構築等に向け、改めて一步を踏み出した一年となりました。

本県の令和5年度学校教育指導重点においては、「学習者主体の授業づくり」「『主体的に学習に取り組む態度』の観点からの指導と評価の改善」「ICT環境を最大限に生かした授業の実現」等により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことが示されています。さらに、児童生徒が安心できる環境づくりの推進やいじめ・不登校への組織的な支援体制の充実等、学校教育においては多岐にわたる課題への対応が求められています。

このような状況を踏まえ、本センターでは、これからを生きる子供たちの学びへの支援という視点から、研究主題を「新たな時代に対応する学校教育への総合的な支援」～求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導の在り方～とし、研究推進校と協同研究を進めてきました。

研究の内容としては、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業づくりや評価の在り方に対する支援の有効性の検証」「学力調査結果の分析・考察による授業の改善・充実に向けた指導の在り方の提示」「教員のICT活用指導力の向上に向けた支援と効果的な取組の実践検証」「教育相談・特別支援教育・教育支援の領域における学校現場の現状とニーズに応じた研究」等を推進してきました。いずれにおいても、授業づくりや校内研究における活用につながる具体的かつ実践的な研究になるよう留意するとともに、研究成果により本センターで実施する研修や相談業務の充実を図りながら、調査研究と研修の一体化に努め、県下の学校教育を支援するという視点を重視して取り組んでおります。

山梨県総合教育センターでは、今後も「知の拠点」としてシンクタンク機能の充実を目指し、本県学校教育の振興と充実に寄与できるよう研究を進めていきます。

研究の概要

1 研究支援

(1) 基本方針

「教育研究」「学校支援」「教育情報収集・分析」の機能を積極的に連携させ、「知の拠点」としてのシンクタンク機能の充実を目指す。

各研究支援領域に応じ研究推進校（センターによる校内研究支援対象校）を選定し、実践的な研究支援を基盤とした協同研究を推進する。また、研究推進校における成果を、授業改善等の具体例として県内に広く周知する。

各種調査の結果分析を生かした研究、指導・助言の充実を目指すため、山梨大学等の外部機関との連携を図る。

調査研究・研修・情報教育・相談支援に関わる本センターの業務、また、学校訪問時の指導の充実に向けた喫緊の教育課題や教科・領域等に関する研究及び研究支援を推進し、各指導主事の資質・能力の向上に資する。

(2) 研究内容 詳細は、各チームの研究発表資料をご覧ください。

授業づくり・学校づくり

「校内研究への支援の在り方」

教員一人一人の授業改善につながる校内研究を目指して

【研究推進校 鳥沢小学校・高根東小学校】

授業づくり・学校づくり

「『主体的・対話的で深い学び』の視点を明確にした授業づくり」

対話的な学びの充実につながる校内研究支援

【研究推進校 双葉中学校】

授業づくり・学校づくり

「生徒が主体的・継続的に学習に取り組む指導・評価の在り方に対する支援」

BYODの利活用と観点別評価を通じて

【研究推進校 青洲高等学校】

情報教育

「学校における教育の情報化に向けた支援の在り方」

ICTの効果的活用及び教員のICT活用指導力の向上を目指して

【研究推進校 白根飯野小学校】

教育相談

「有効な支援方法について」

支援につながりにくい児童生徒と保護者のケースを通して

特別支援教育

「自立活動の指導に関する研究」

多様な教育的ニーズのある児童生徒等の系統的な学びを目指して

教育支援

「学校と教育支援センター等がつながる不登校児童生徒への支援を探る」

2 センター研究支援の成果と課題

(1) 成果

- ・研究推進校との連絡・調整を図り、指導主事の研究推進校への年間訪問回数は1校につき平均約15回、訪問延べ人数は1校につき平均約37名と継続的な研究支援を行った。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点による授業づくりにつなげるために、研究推進校の研究主題に即した学習会の実施、学力調査の結果分析の活用、ICTの効果的な活用法の提案、授業改善のポイントや視点の提示等により、指導における課題や児童生徒の学習のつまずき等を校内で共有し改善につなげるなど、研究推進校のニーズに応じた研究支援を推進した。
- ・研究を充実させるためのツールや手立て、ICTの活用、新たな研究組織の構築等の支援により、校内研究の活性化を図った。
- ・相談支援領域において、データの分析やアンケート調査により教育現場のニーズや実態に応じた研究を推進し、成果物の作成を進めた。

(2) 課題

- ・研究推進校の主体的な校内研究の推進を図るため、また研究支援の実効性を高めるために、例えばできるだけ早い時期から研究推進校のニーズや本センターの考えを共有し具体的な研究支援の見通しを持つこと、研究支援の成果を見取るための検証方法を精査すること、課題を明確にして改善の手立てを検討し次の支援につなげること等、本センターの研究におけるPDCAサイクルをより確実なものにする。
- ・研究推進校との協同研究が充実するよう、より緊密に連携するとともに、組織マネジメントの視点から研究推進校や本センターの研究領域・チームにおける協働意識の醸成を図る。
- ・学校のニーズや先生方の資質・能力の向上に資するよう、研究推進校の検証授業の公開や研究大会だけでなく、本センターが実施する研修や作成資料、学校訪問、相談支援等において、研究の成果を積極的に発信、活用する。

特別講演会

演題 「不登校の子どもの こころとその支援」

講師

奈良女子大学教授
同大学臨床心理相談センター長
伊藤 美奈子 氏

山梨県総合教育センター 特別講演会 講師の紹介



奈良女子大学教授
同大学臨床心理相談センター長

伊藤美奈子

研究分野： 人文・社会、臨床心理学

資格： 公認心理師・臨床心理士

著書： 「不登校の理解と支援のためのハンドブック
多様な学びの場を保障するために」
(ミネルヴァ書房)

「不登校—その心もようと支援の実際」
(金子書房)
など多数

大阪出身。専門は、教育臨床（学校現場での心理臨床実践）、発達臨床（思春期以降の心理と支援）。公認心理師・臨床心理士。大学卒業後、高校の国語科教諭として教壇に立つ傍ら、大学院に進学。京都大学大学院教育学研究科博士課程を修了。慶應義塾大学教職課程センター教授などを経て、現職。文部科学省「不登校に関する調査研究協力者会議」委員。現在も、自身の教職や子育ての経験を生かしながらカウンセリングの現場に立つ。

令和6年度 研究推進校の募集について

山梨県総合教育センター

山梨県総合教育センターでは令和6年度も引き続き、**学校が進める校内研究を全面的に支援し、研究主題や目指す児童生徒像等の実現のために、学校と協同研究を推進していきます。**

本センターの研究領域（チーム）の専門性を生かしながら、学校や先生方のニーズに応じた校内研究支援と各学校の研究主題に基づく効果的な取組の実践検証を進めていくというスタンスで支援にあたります。

また、今日的な教育課題への効果的な対応を校内研究への支援を通じて見出し、具体的実践例を県下に情報提供するとともに、本センターにおける調査研究・研修・情報教育・相談支援等の業務に生かし、その機能の充実を図っていきたくと考えます。

以上の趣旨から、**学校が進める校内研究を本センターの指導主事の支援のもとで、校内研究を進める学校（研究推進校）を募集します。**研究大会において各領域（チーム）の研究内容の詳細をご覧いただき、本センターの研究支援を希望する場合は、下記の連絡先にご連絡ください。

1 令和6年度に募集する研究領域・校種・校数・期間

(1) 「授業づくり・学校づくり」領域

・期間は、**令和6～7年度の2年間**とします。

・本センターの研究大会（2月実施予定）にて校内研究の成果等を発表していただきます。

研究推進校として、中学校1校、高等学校1校をそれぞれ募集します。（小学校はR7に募集予定）

<研究内容の例>

新しい時代の学校教育の実現に向けた職員の授業観の転換、授業の改善・充実

・子供主体の授業への転換

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

・指導と評価の一体化による学習評価の改善 等

校内研究の充実・活性化、新たな教師の学びの姿

・ICTの利活用 ・カリキュラム・マネジメントの充実、PDCAの確立

・教員の協働意識の醸成

・研修観の転換 等

学力調査の結果分析を生かした授業改善を目的とする研究推進校（データ分析ワーキング・グループ協力校（WG協力校））として、小学校・中学校のいずれか1校を募集します。

・**参観希望者による研究授業の参観を実施します。**

<取組内容の例>

全国学力・学習状況調査をはじめ、各種学力調査の結果分析を生かした授業の改善・充実

・全国学調の自校採点による児童生徒のつまずきの把握、自校採点のための学習会の実施

・山梨大学との連携による教科の高い専門性を生かしたデータ分析、授業改善のポイントの提示

・山梨大学との連携による授業改善に向けた指導案づくり

・研究授業の実施、山梨大学教授による指導・助言 等

(2) 「情報教育」領域

・期間は、**希望する支援内容等を踏まえて決定**します。

・**研究推進校として、小学校・中学校・高等学校のいずれか1校を募集**します。

・本センターの研究大会（2月実施予定）にて校内研究の成果等を発表していただきます。

<研究内容の例>

教育DX推進

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたICTの活用

・ICTに関わる総合的な支援 ・教員のICT活用指導力の向上

・1人1台端末・高速通信環境の効果的な活用 等

2 令和6年度 募集の流れ（問合せ窓口：本センター 調査研究課）

研究内容や支援の内容についてお気軽にお問い合わせください。

3月13日（水）までに学校長の承諾のもと、「研究支援希望連絡票」（様式1）を以下メールにて送信してください。

（様式1）を受領後、本センターより当該校の担当者へ「研究計画書」（様式2）の提出案内を行います。

提出書類等による審査、関係機関との協議等を経て、3月末までに当該校へ結果を通知します。

連絡先：調査研究課担当メールアドレス：shigeta-szsm@kai.ed.jp（TEL：055-262-6180）

(様式1)

研究支援希望連絡票 (鑑不要 本票のみメールにてお送りください。)

令和6年度 山梨県総合教育センター研究支援希望連絡票

提出期限 3 / 13 (水)

1 学 校 名 _____

2 校 長 名 _____

3 所 在 地 (〒 _____) _____

4 連 絡 先 TEL _____

FAX _____

学校代表メール _____

5 この件についての校内担当者 (校務分掌)

氏名 _____ (_____)

6 令和5年度校内研究主題 _____

7 研究への支援を求めたい研究領域・内容

(1) 「授業づくり・学校づくり」領域 研究推進校 データ分析 WG 協力校

(2) 「情報教育」領域 研究推進校

研究領域 (番号を で囲む)

第1希望 (1) / (1) / (2) 内容: _____

第2希望 (1) / (1) / (2) 内容: _____

8 研究支援を希望した主な理由 (箇条書き可)

この(様式1)を本センターのウェブサイトからダウンロードし、必要事項を記入の上、
下記 調査研究課担当メールアドレスにお送りください。

受領確認後、学校代表メール宛にメールにて連絡いたします。

(調査研究課担当メールアドレス : shigeta-szsm@kai.ed.jp)

(様式2)

研究計画書 (A4表1枚以内)

令和 年 月 日

学校名		校長名	印
所在地	〒		
連絡先	TEL	FAX	e-mail
児童生徒数	R6年度見込数 1年() 2年() 3年() 4年() 5年() 6年() 合計()		
教職員数	()名	R6年度見込数	令和5年度 研究主任名
令和5年度 研究主題等			

1 研究領域 (○をつけてください)	(1)「授業づくり・学校づくり」 研究推進校 <u>データ分析WG協力校</u> (2)「情報教育」研究推進校
2 1を選択した 理由・留意点	(例)本校は～～ 主体的・対話的で深い学びの授業の実現のために、総合教育センターの支援のもと、研究推進していきたいと考えている。
3 令和6年度 研究概要(見込)	(例)来年度は、全国学力・学習状況調査の結果分析から、本校の経年的課題を～ 授業改善を計画的に図るために、総合教育センターの支援のもと、研究推進を進めていきたいと考えている。
4 令和6年度 研究の構想・計画	(例)4月 研究主題・仮説・研究内容・研究計画 5月 学習会 6月 提案授業 7月 授業研究 8月 研修会 9月 ブロック研究 10月 授業研究会 11月 拡大校内研究会(公開予定) 12月 研究のまとめ 1月 アンケート結果分析 2月 研究の総括 1年間だけの表記でOK
5 その他 (留意点・質問)	・ ・

令和6年度

総合教育センターによる校内研究支援 を希望する中学校 募集！

校内研
への
支援

学力
向上

校内研
活性化

授業力
向上

指導主事が校内研究をサポートします。



授業・学校づくり領域

中学校 1校 募集

- ・校内研究の活性化に向けた支援
- ・山梨大学と連携した支援

具体的な支援には...

希望校の要望に合わせた**支援**

研究授業の支援 学習指導案検討の支援
学習会の支援

R5年度 研究推進校の先生方からの声

- ・教材研究の**楽しさ**がわかった！
- ・**研究のビジョン**が**明確**になった！
- ・**研究の質**が高まった！
- ・話し合いが**活発**になった！

詳しくはこちらへ

055-262-6180

調査研究課

令和6年度

総合教育センターによる校内研究支援

を希望する高校を募集します！

校内研
活性化

校内研
への
支援

学力
向上

授業力
向上

授業改善への
近道

指導主事が校内研究をサポートします。



授業・学校づくり領域

高等学校

1校

募集

- ・校内研究の活性化に向けた支援
- ・山梨大学と連携した支援

具体的な支援には...

希望校の要望に合わせた**支援**

校内研の支援 学習指導案検討の支援
教科会議の支援

R5年度研究協力校の先生方からの声

- ・ICT 端末や振り返りシートの活用などに取り組む**良い機会**となった。
- ・**教材研究**や**授業改善**の参考になることが多く**役立った**！

詳しくはこちらへ

055-262-6180

調査研究課

令和6年度

学力
向上

総合教育センターによる

学力調査の結果分析を生かした 授業改善

への支援を希望する

小学校 または 中学校 募集！

授業の
改善・充実

指導主事・山梨大学の先生方が授業改善をサポートします。

授業・学校づくり領域
学力調査の結果分析を生かした
授業改善

- ・児童生徒のつまずきの把握
- ・山梨大学と連携した支援

小学校 または 中学校 1校 募集

具体的な支援には...

自校採点のための学習会による児童生徒のつまずきの把握

山梨大学との連携による

高い専門性に基づくデータ分析、授業改善に向けた指導案づくり

詳しくはこちらへ 055-262-6180 調査研究課

情報教育チームは

令和6年度

校内研究 (ICT活用推進) を支援します

希望支援内容を踏まえ決定します

授業での活用は・・・?



1人1台端末の効果的な活用は・・・?

教育DXを進めるには?



校内研究会・校務での活用はどうすれば?

デジタルとアナログのベストミックスは?



R5年度推進校の様子

ICT活用での悩みありませんか?

総合教育センターがお手伝いします。



対象校種

小・中・高

○具体的支援の内容

- ・校内研究会や学習会に指導主事を派遣します。
- ・学校の実態に応じた支援を行います。

○外部機関との連携協力

- ・山梨大学アドバイザーの派遣も可能です。

○研究支援を希望する学校としてのメリット

- ・教員のICT活用指導力の向上に向けた取組の充実が図られます。
- ・ICTの効果的な活用による授業改善や校務(研究会)での活用に向けた取組の充実が図られます。